


社会調査支援機構

チキ  ラボ

性的マイノリティの精神的健康に関する 調査結果報告書（詳細）

目次

1. 性的マイノリティの精神的身体的健康・社会経済的状况

1. 使用データ
2. 質問項目
(参考) 抑うつ・不安障害の変数について
3. 回答者のうち「性的マイノリティ」の割合
4. 性別・年齢別 性的マイノリティの割合
5. 性的マイノリティの精神的・身体的健康
6. 性的マイノリティの社会経済的状况
7. まとめ

2. 性的マイノリティに関する政策についての意識調査

1. 使用データ
2. 回答者の特性：代表性の高いサンプルとの比較
3. 回答者の特性：性的マイノリティとの関り
4. 性的マイノリティに関する政策に対する態度
5. 性別による政策への態度の違い
6. 年齢による政策への態度の違い
7. 性的マイノリティの友人の有無による政策への態度の違い
8. 性的マイノリティの漫画やドラマの視聴による政策への態度の違い
9. 政治的立場による政策への態度の違い
(参考) 性的マイノリティの当事者の政策への態度
(参考) 性的マイノリティの家族の有無による政策への態度の違い
10. まとめ

引用文献

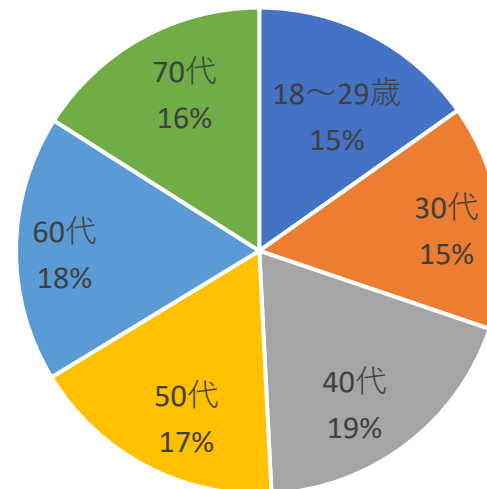
1. 性的マイノリティの精神的身体的健康・社会経済的状况

1. 使用データ

- 調査方法：2回のWEBアンケートのデータを統合して使用した
- 調査実施日：2022年11月15日（火）～2022年11月22日（火）
2023年4月13日（木）～2023年4月18日（火）
- 調査実施会社：株式会社ネオマーケティング
- 調査対象者：同会社のアンケートサイト「アイリサーチ」のモニター登録者のうち、18～79歳の男女。全国の地域・性別・年齢の人口分布（総務省統計局「人口推計」2018年10月1日現在人口（2019年4月12日発表），<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2018np/index.html>）に合わせて、調査対象者の割付を行った。調査に際し、サテイスファイス検出項目を2問設け、いずれの質問にも指示通り回答した人のみを有効回答とした。
- 有効回答数：各調査回につき1000名（計2000名）

回答者の性別・年齢

- 男性 992人（49.6%）・女性 1008人（50.4%）
- 50.22歳（ $SD = 16.24$ ）



回答者の年齢分布

2. 質問項目

精神的健康

- 抑うつ：PHQ-9（村松, 2014）
 - 不安障害：GAD=7（村松, 2014）
 - 孤独感：3項目孤独感尺度 [3～9点]（Igarashi, 2019）
 - 人生満足度：SWLS [5～30点]（角野, 1995）
- 尺度の基準において「中度」以上の人の割合を指標とした
- 平均値を指標とした

主観的健康

- あなたの現在の健康状態はいかがですか [1. 悪い～5. 良い]

主観的社会経済的地位

- かりに現在の日本の社会全体を、以下の5つの層に分けるとすれば、あなたはどれに入りますか [1. 下 2. 中の下 3. 中 4. 中の上 5. 上]

個人的不公平感（自分自身が公平な扱いを受けていないという認知） [2～6点]

- 自分自身が公平な扱いを受けていないと感じることがありますか
- 自分と同じ世代・性別の人々は公平な扱いを受けていないと感じることがありますか

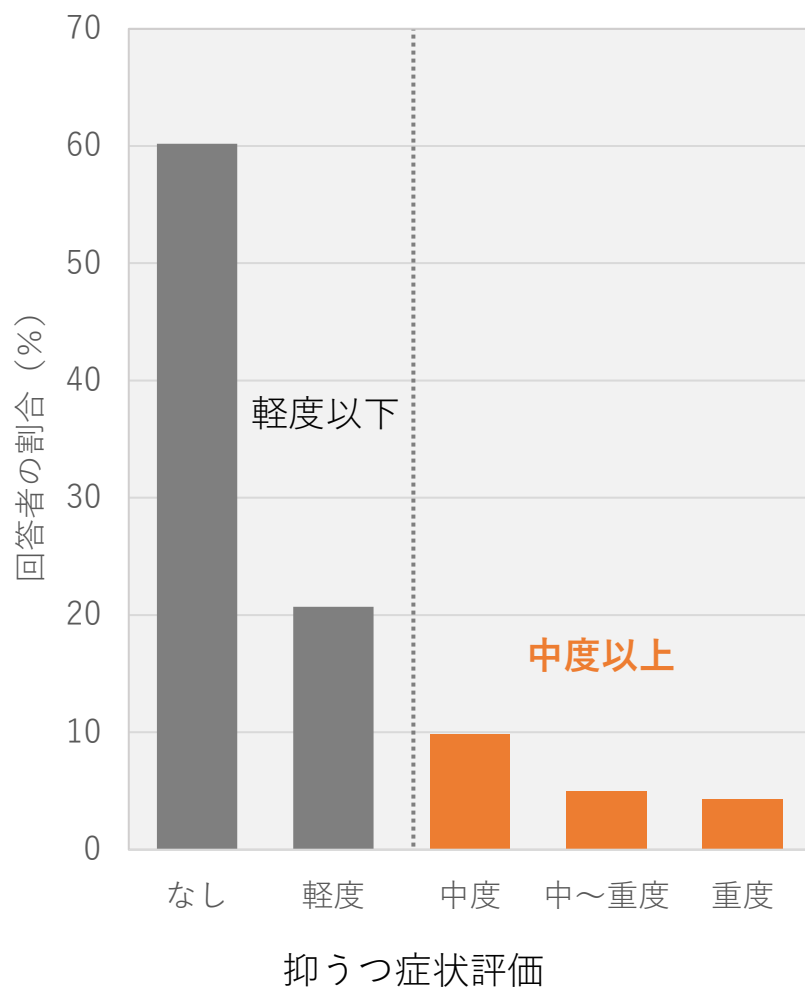
社会的不公平感（社会が公平な場ではないという認知） [2～6点]

- 日本社会は公平な場ではないと感じることがありますか
- 世界は公平な場ではないと感じることがありますか

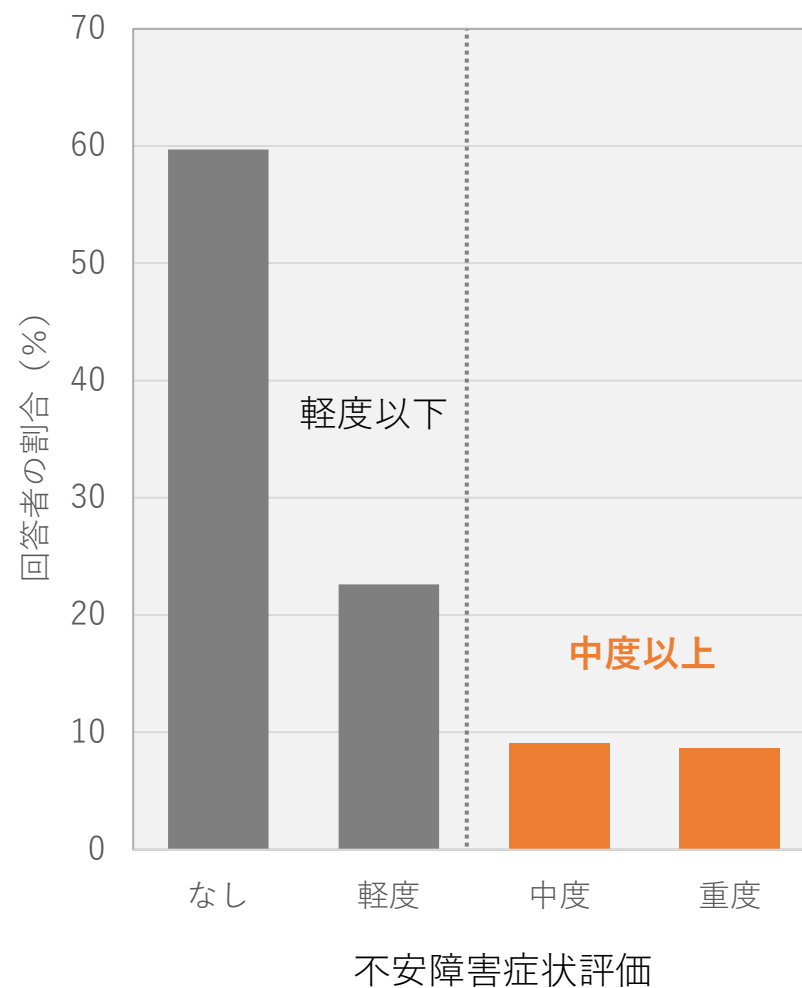
この他、性別・年齢・最終学歴・世帯収入などの質問を含んだ。

(参考) 抑うつ・不安障害の変数について ※ 2022年6月第1回調査報告書より

抑うつ (PHQ-9; 村松, 2014)



不安障害 (GAD-7; 村松, 2014)



3. 回答者のうち「性的マイノリティ」の割合

「次に挙げる特性のうち、あなたに当てはまるものをすべて選んでください」という質問に対し、「性的マイノリティ（LGBTQ+）である」という項目についての結果

	人数	割合
「性的マイノリティである」を選択	21人	1.1%
非選択	1910人	96.6%
「答えたくない」を選択	69人	3.5%

4. 性別・年代別 性的マイノリティの割合

「次に挙げる特性のうち、あなたに当てはまるものをすべて選んでください」という質問に対し、「性的マイノリティ（LGBTQ+）である」という項目についての結果

	人数	割合
男性	11人	1.1%
女性	10人	1.0%

※ 別の質問項目「あなたの性別をお答えください」において、男性か女性のいずれかを選択してもらった際の回答に基づく区分

	人数	割合
18-39歳	14人	2.5%
40-59歳	6人	0.8%
60-79歳	1人	0.1%

※ カイ2乗検定の結果、18-39歳で有意に多く、60-79歳で有意に少なかった。（ $\chi^2(2)=16.4, p<.000$ ）

5. 性的マイノリティの精神的・身体的健康

性的マイノリティ（LGBTQ+）とそれ以外の人、抑うつの高い人・不安の高い人の割合、および、孤独感・人生満足感・不公平感の各変数の平均値を示した。

性的マイノリティが有意に高い場合にオレンジ、有意に低い場合に青で示した

	全体	性的マイノリティ	それ以外	信頼区間	p値
抑うつの高い人の割合 ^{a)}	17.3%	42.9%	17.0%	1.534 — 8.785	**
不安感の高い人の割合 ^{a)}	14.3%	42.9%	13.8%	1.951 — 11.206	**
孤独感の平均値 ^{b)}	4.73	6.05	4.71	-2.171 — -0.504	**
人生満足感の平均値 ^{b)}	14.97	11.62	15.02	0.9087 — 5.9024	**
主観的健康の平均値 ^{b)}		3.05	3.69	0.169 — 1.114	**

a) Fisherの直接法による分析.....信頼区間が1を跨がない場合に有意

b) t検定による分析.....信頼区間が0を跨がない場合に有意

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

- 性的マイノリティの人は、そうでない人に比べ、抑うつ・不安感の高い人が多く、孤独感が高く、人生満足度が低く、主観的健康状態が悪かった。

⇒ 性的マイノリティはそうでない人に比べて精神的・身体的健康状態が悪い

6. 性的マイノリティの社会経済的状况

性的マイノリティ（LGBTQ+）の人／それ以外の人について、就労状況などの社会経済的特性を比較した。有意に大きい場合にオレンジ字で、有意に小さい場合に青字で示した。

特性	全体	性的マイノリティ	それ以外	信頼区間	p値
現在働いている人の割合	59.5%	71.4%	59.5%	0.657 — 4.400	n.s.
未婚の人の割合	35.4%	81.0%	33.8%	2.787 — 24.815	***
最終学歴が大学・大学院の人の割合	45.0%	47.6%	44.8%	0.473 — 2.648	n.s.
世帯収入の平均値（7段階）	3.25	2.44	3.26	0.027 — 1.600	*
主観的社会経済的地位の平均値（5段階）	2.51	1.81	2.52	0.102 — 1.526	***
個人的不公平感の平均値	1.50	2.14	1.49	-0.05 — -0.392	***
社会的不公平感の平均値	1.91	2.21	1.92	-0.608 — 0.135	†

※ 割合は χ^2 検定、平均値はt検定による分析

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

- 性的マイノリティの人は、そうでない人に比べ、未婚の人が多く、世帯収入が低く、主観的社会経済的地位が低く、個人的不公平感が高かった。

7. まとめ

- 調査への回答者のうち、性的マイノリティは約1%。特に若い世代（18-39歳）が多かった。
 - ⇒ 性的マイノリティについての知識が広がったことで、若い世代ほど自分自身が性的マイノリティであることを受け入れやすくなっているのではないか。
- 性的マイノリティは、そうでない人に比べて、抑うつ・不安・孤独感が強く、人生満足感が低く、主観的な健康状態が悪かった。
 - ⇒ 性的マイノリティは、そうでない人に比べて、精神的健康・身体的健康状態が悪い。
- 性的マイノリティは、結婚している人が少なかった。
- 性的マイノリティは、世帯収入が低く、自分の社会経済的地位が低いと感じており、自分が公平な扱いを受けていないと感じていた。
- 学歴と就労率については、性的マイノリティとそうでない人との間に差はなかった。
 - ⇒ 現在同性婚が認められていないことがなどが原因で、結婚が難しい人が多い。
 - ⇒ 世帯収入が低く、自分が経済的に不利な立場に置かれていると感じている。
 - ⇒ 世帯収入が低いのは、結婚している人が少なく、共働きにならないことも一因だと考えられる。

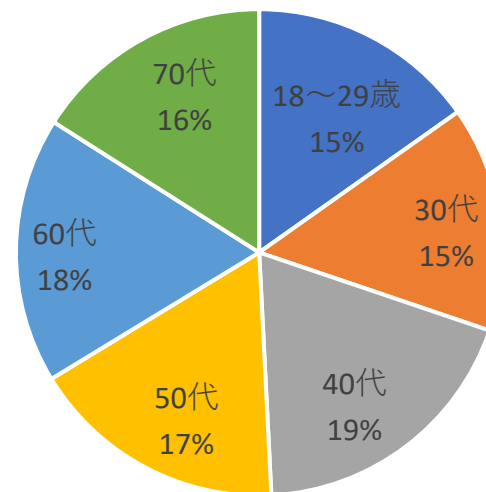
2. 性的マイノリティに関する政策 についての意識調査

1. 使用データ

- 調査方法：WEBアンケート
- 調査実施日：2023年4月13日（木）～2023年4月18日（火）
- 調査実施会社・調査対象者：前述のとおり
- 有効回答数：1000名

回答者の性別・年齢

- 男性 496人（49.6%）・女性 504人（50.4%）
- 50.27歳（ $SD = 16.25$ ）

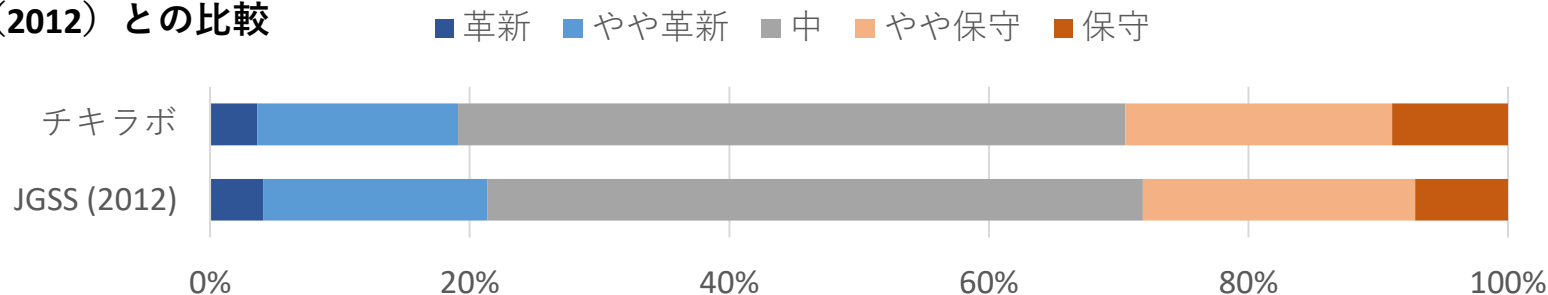


回答者の年齢分布

2. 回答者の特性：代表性の高いサンプルとの比較

政治的な考え方を、保守的から革新的までの5段階にわけるとしたら、あなたはどれにあてはまりますか。（1.最も保守的～5.最も革新的） ※「答えたくない」と回答した115人を除く

• JGSS（2012）との比較



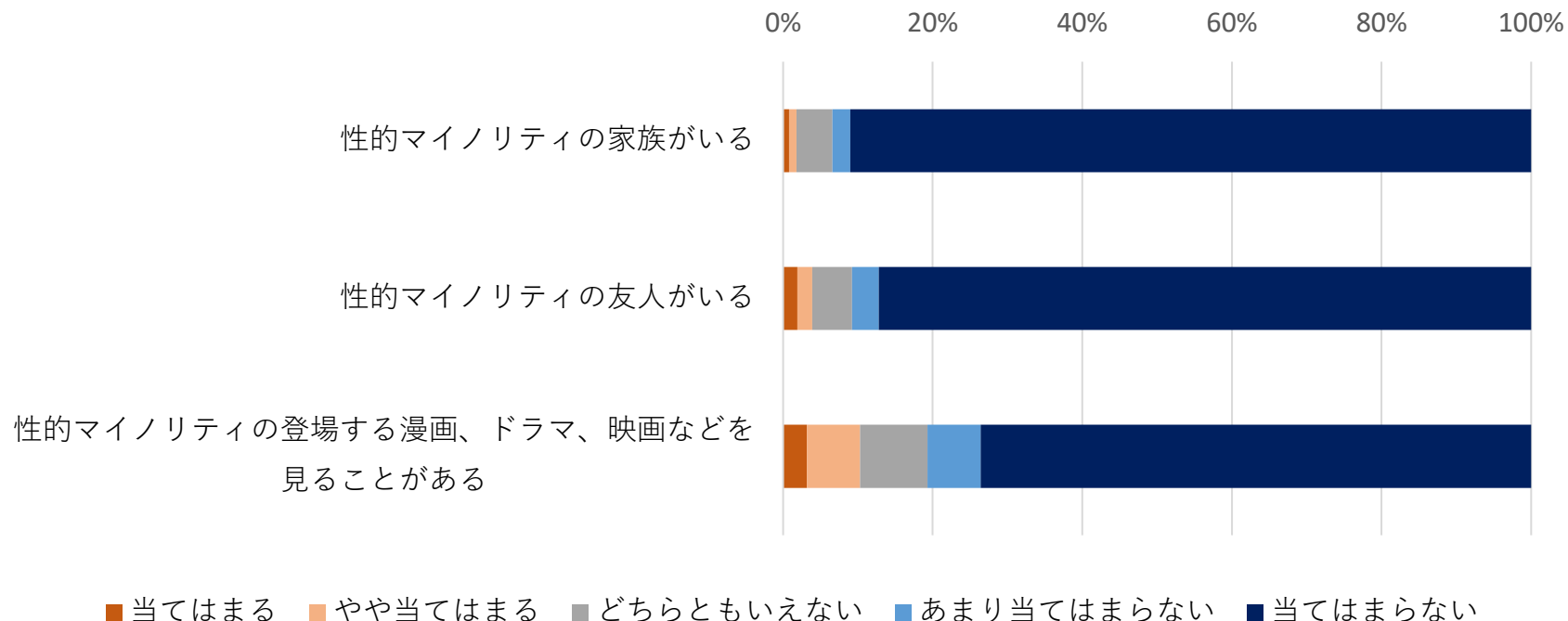
全国の住民基本代表からランダムサンプリングされた20～89歳の男女を調査対象とする日本版 General Social Surveys 2012（2012年実施, 有効回答数2335人）と同じ質問項目を用いたため、回答の分布をカイ2乗検定によって比較したところ、有意な違いはなかった。

• 世界価値観調査（2020）との比較

- 全国 からランダムサンプリングされた18歳以上の男女を調査対象者とする世界価値観調査（2020年実施, 有効回答数1415人）の政治的態度をたずねる質問の平均値（データ出典：谷口, 2022）との比較も行った。
- 世界価値観調査では、最も革新的な場合に1、最も保守的な場合に10の値をとる10件法による質問だったため、本調査データも、最も保守→10、やや保守→7.5、中→5.5、やや革新→3.5、革新→1、と修正し、平均値を比較した。
- 世界価値観調査（2020）の平均値は 5.77 (SD = 2.00)、本調査データの平均値は 5.84 (SD = 1.97)であり、有意な差はなかった ($t(884) = 1.07, n.s.$)。

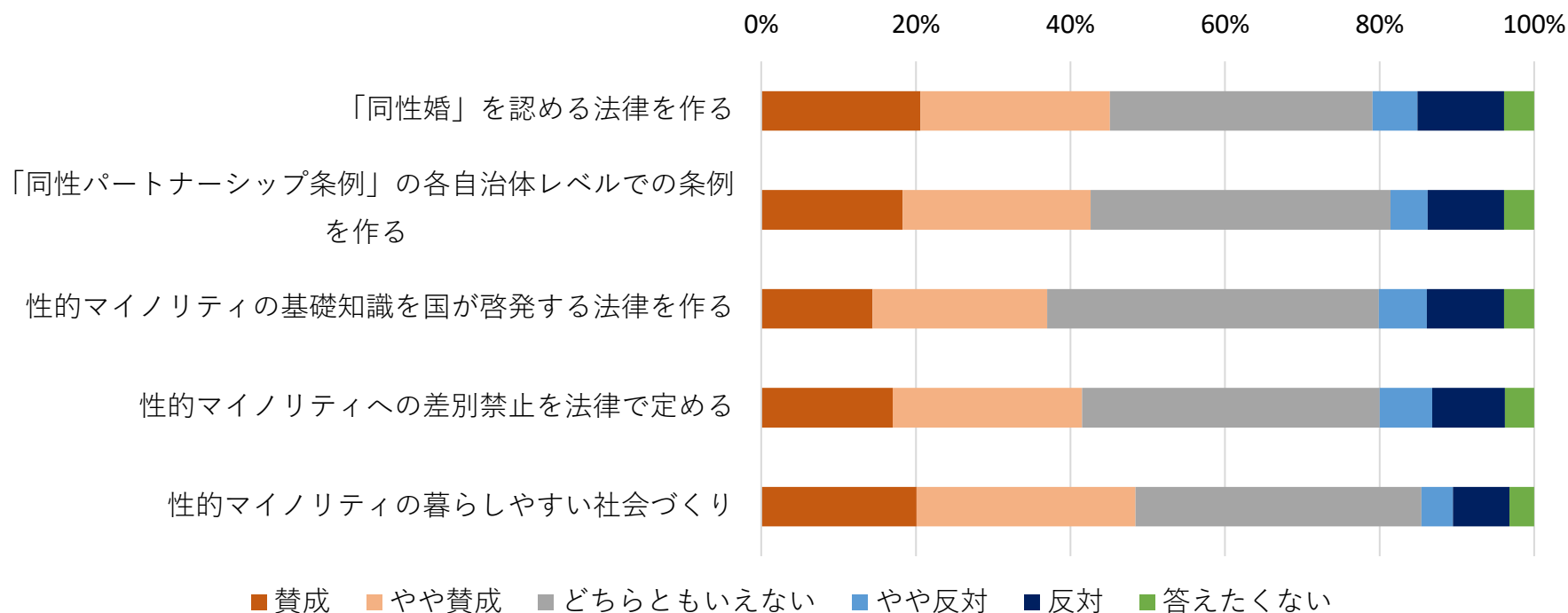
⇒ 代表性の高いサンプルと比較して、回答者の政治的態度に違いはない。

3. 回答者の特性：性的マイノリティとの関わり方



- 「性的マイノリティの家族がいる」について「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した人は18人（1.8%）、「性的マイノリティの友人がいる」については39人（3.9%）、「性的マイノリティの登場するマンガ、ドラマ、映画などを見たことがある」については103人（10.3%）だった。
- ⇒ 家族や友人としての直接的な接触だけでなく、漫画やドラマを通しての間接的な接触を含めても、性的マイノリティとの接触は少ない。

4. 性的マイノリティに関する政策に対する態度



- 具体的な政策について、「同性婚」「同性パートナーシップ条例」「差別禁止の法律」については40%以上の方が、「基礎知識の啓発」についても約40%が、「賛成」「やや賛成」と答えていた。
- いずれの政策についても「反対」「やや反対」は合わせて20%程度だった。
- 包括的な「性的マイノリティの暮らしやすい社会づくり」に賛成の人は48%、反対の人は11%と、賛成の割合がより多かった。

⇒ 性的マイノリティに関する政策に反対の人より、賛成の人の方が多い。

[%023]									
				1	2	3	4	5	6
Q18	日本社会についてのあなた自身の考えとして、以下の各項目ごとに、最も近いものを選んでください。（お答えは1つずつ）	全体	賛成	やや賛成	どちらとも いえない	やや反対	反対		答えたくない
Q18S1	外国人観光客の受け入れ	1000	25.5	31.1	28.5	6.4	6.3	2.2	
Q18S2	外国人労働者の受け入れ	1000	15.4	30.2	34.9	8.3	8.8	2.4	
Q18S3	外国人住民の受け入れ	1000	13.4	27.5	36.6	9.3	10.9	2.3	
Q18S4	難民の受け入れ	1000	13.4	23.9	38.6	8.2	13.2	2.7	
Q18S5	性的マイノリティの暮らしやすい社会づくり	1000	20.1	28.3	37.0	4.1	7.3	3.2	
[%024]									
				1	2	3	4	5	6
Q19	あなたは以下のような政策について、どのような意見をお持ちですか。最も近いものを選んでください。（お答えは1つずつ）	全体	賛成	やや賛成	どちらとも いえない	やや反対	反対		答えたくない
Q19S1	「同性婚」を認める法律を作る	1000	20.6	24.5	34.0	5.8	11.2	3.9	
Q19S2	「同性パートナーシップ条例」の各自治体レベルでの条例を作る	1000	18.3	24.3	38.8	4.8	9.9	3.9	
Q19S3	性的マイノリティの基礎知識を国が啓発する法律を作る	1000	14.4	22.6	42.9	6.2	10.0	3.9	
Q19S4	性的マイノリティへの差別禁止を法律で定める	1000	17.0	24.5	38.5	6.8	9.4	3.8	
Q19S5	難民審査については、政府ではなく、より独立性が高い第三者組織を設ける	1000	16.1	23.0	44.4	6.1	6.9	3.5	
Q19S6	技能実習制度を廃止する	1000	17.5	17.7	46.6	7.2	7.1	3.9	
Q19S7	外国人の入管施設について、収容期間の上限を設けるなどの人道的な措置を行う	1000	19.9	26.0	42.2	3.8	4.2	3.9	
Q19S8	外国人のオーバーステイ（ビザ切れ）に対して、政府がより強制的に、母国に送り返す	1000	20.8	22.5	41.7	7.0	3.8	4.2	

5. 性別による政策への態度の違い

※「賛成・やや賛成」を「賛成」、「反対・やや反対」を「反対」とした
 χ^2 検定の結果、有意に大きいセルをオレンジ、有意に小さいセルを青で示した

度数 (%)

		賛成	どちらとも いえない	反対	p値
「同性婚」の法律制定	男性	198 (41.9)	166 (35.1)	109 (23.0)	***
	女性	253 (51.8)	174 (35.7)	61 (12.5)	
「同性パートナーシップ条例」の制定	男性	195 (41.1)	188 (39.6)	92 (19.4)	**
	女性	231 (47.5)	200 (41.2)	55 (11.3)	
政府による性的マイノリティの基礎知識の啓発	男性	174 (36.7)	201 (42.4)	99 (20.9)	**
	女性	196 (40.2)	228 (46.8)	63 (12.9)	
差別禁止の法律	男性	195 (41.1)	184 (38.8)	95 (20.0)	*
	女性	220 (45.1)	201 (41.2)	67 (13.7)	
性的マイノリティの暮らしやすい社会づくり	男性	227 (48.0)	171 (36.2)	75 (15.9)	**
	女性	257 (51.9)	199 (40.2)	39 (7.9)	

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

- いずれの政策も、男性のほうが女性より「反対」が多かった。
 - 「同性婚」「同性パートナーシップ条例」については、女性の方が男性より有意に「賛成」が多かった。
- ⇒ 女性の方が性的マイノリティに関する政策に肯定的

6. 年齢による政策への態度の違い

※ 「賛成・やや賛成」を「賛成」、「反対・やや反対」を「反対」とした
 χ^2 検定の結果、有意に大きいセルをオレンジ、有意に小さいセルを青で示した

		賛成	どちらとも いえない	反対	p値
「同性婚」の法律制定	18-39歳	142 (49.8)	99 (34.7)	44 (15.4)	n.s.
	40-59歳	156 (45.0)	132 (38.0)	59 (17.0)	
	60-79歳	153 (46.5)	109 (33.1)	67 (20.4)	
「同性パートナーシップ条例」の制定	18-39歳	122 (42.8)	130 (45.6)	33 (11.6)	n.s.
	40-59歳	157 (45.2)	135 (38.9)	55 (15.7)	
	60-79歳	147 (44.7)	123 (37.4)	59 (17.9)	
政府による性的マイノリティの基礎知識の啓発	18-39歳	107 (37.7)	135 (47.5)	42 (14.8)	n.s.
	40-59歳	125 (36.0)	157 (45.2)	65 (18.7)	
	60-79歳	138 (41.6)	137 (41.5)	55 (16.7)	
差別禁止の法律	18-39歳	112 (39.4)	128 (45.1)	44 (15.5)	†
	40-59歳	142 (40.9)	139 (40.1)	66 (19.0)	
	60-79歳	161 (48.6)	118 (35.6)	52 (15.7)	
性的マイノリティの暮らしやすい社会づくり	18-39歳	132 (46.2)	122 (42.7)	32 (11.2)	n.s.
	40-59歳	174 (49.3)	133 (37.7)	46 (13.0)	
	60-79歳	178 (54.1)	115 (35.0)	36 (10.9)	

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

- 年齢による差はほとんどなかったが、「差別禁止を法律で定める」についてのみ、高年層で賛成が多く、若年層で「どちらともいえない」が多かった。

7. 性的マイノリティの友人の有無による政策への態度の違い

度数 (%)

		賛成	どちらとも いけない	反対	p値
「同性婚」の法律制定	該当	28 (75.7)	5 (13.5)	4 (10.8)	**
	非該当	423 (45.8)	335 (36.3)	166 (18.0)	
「同性パートナーシップ条例」の制定	該当	26 (70.3)	9 (24.3)	2 (5.4)	**
	非該当	400 (43.4)	379 (41.0)	145 (15.7)	
政府による性的マイノリティの基礎知識の啓発	該当	23 (62.2)	8 (21.6)	6 (16.2)	**
	非該当	347 (37.6)	421 (45.6)	156 (16.9)	
差別禁止の法律	該当	26 (70.3)	7 (18.9)	4 (10.8)	**
	非該当	389 (42.1)	378 (40.9)	158 (17.1)	
性的マイノリティの暮らしやすい社会づくり	該当	34 (87.2)	3 (7.7)	2 (5.1)	***
	非該当	450 (48.8)	367 (39.5)	112 (12.1)	

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

※ 「賛成・やや賛成」を「賛成」、「反対・やや反対」を「反対」とした
性的マイノリティの友人については、「あてはまる・ややあてはまる」を「該当」それ以外を「非該当」とした
χ²検定の結果、有意に大きいセルをオレンジ、有意に小さいセルを青で示した

- いずれの政策も、性的マイノリティの友人がいる人のほうが「賛成」が多く、「どちらともいけない」が少なかった。

⇒ 性的マイノリティの友人がいる人の方が性的マイノリティに関する政策に肯定的

8. 性的マイノリティの漫画やドラマの視聴による政策への態度の違い

度数 (%)

		賛成	どちらとも いけない	反対	p値
「同性婚」の法律制定	該当	76 (75.2)	17 (16.8)	8 (7.9)	***
	非該当	375 (43.6)	323 (37.6)	162 (18.8)	
「同性パートナーシップ条例」の制定	該当	74 (73.3)	23 (22.8)	4 (4.0)	***
	非該当	352 (40.9)	365 (42.4)	143 (16.6)	
政府による性的マイノリティの基礎知識の啓発	該当	59 (59.0)	32 (32.0)	9 (9.0)	***
	非該当	311 (36.1)	397 (46.1)	153 (17.8)	
差別禁止の法律	該当	61 (61.0)	24 (24.0)	15 (15.0)	***
	非該当	354 (41.1)	361 (41.9)	147 (17.1)	
性的マイノリティの暮らしやすい社会づくり	該当	80 (78.4)	18 (17.6)	4 (3.9)	***
	非該当	404 (46.7)	352 (40.6)	110 (12.7)	

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

※ 「賛成・やや賛成」を「賛成」、「反対・やや反対」を「反対」とした
漫画やドラマの視聴については、「あてはまる・ややあてはまる」を「該当」それ以外を「非該当」とした
χ²検定の結果、有意に大きいセルをオレンジ、有意に小さいセルを青で示した

- いずれの政策も、性的マイノリティの漫画やドラマを見る人のほうが「賛成」が多く、「どちらともいけない」「反対」が少なかった。

⇒ 性的マイノリティの漫画やドラマを見る人の方が性的マイノリティに関する政策に肯定的

9. 政治的立場による政策への態度の違い

※「賛成・やや賛成」を「賛成」、「反対・やや反対」を「反対」とした
 中間より保守よりを「保守」、中間を「中」、革新よりを「革新」とした
 χ^2 検定の結果、有意に大きいセルをオレンジ、有意に小さいセルを青

		賛成	どちらとも いえない	反対	p値
「同性婚」の法律制定	保守	108 (42.0)	81 (31.5)	68 (26.5)	***
	中	199 (44.6)	175 (39.2)	16.1 (7.2)	
	革新	110 (65.9)	35 (21.0)	22 (13.2)	
「同性パートナーシップ条例」の制定	保守	108 (41.9)	96 (37.2)	54 (20.9)	***
	中	184 (41.2)	199 (44.5)	64 (14.3)	
	革新	102 (61.4)	43 (25.9)	21 (12.7)	
政府による性的マイノリティの基礎知識の啓発	保守	98 (38.0)	101 (39.1)	59 (22.9)	***
	中	151 (33.8)	230 (51.5)	66 (14.8)	
	革新	94 (56.6)	45 (27.1)	27 (16.3)	
差別禁止の法律	保守	108 (41.9)	91 (35.3)	59 (22.9)	***
	中	175 (39.1)	205 (45.8)	68 (15.2)	
	革新	106 (63.9)	37 (22.3)	23 (13.9)	
性的マイノリティの暮らしやすい社会づくり	保守	122 (47.8)	98 (38.4)	35 (13.7)	**
	中	222 (49.2)	176 (39.0)	53 (11.8)	
	革新	109 (65.3)	42 (25.1)	16 (9.6)	

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

- いずれの政策も、「革新」の人で賛成、「保守」の人で反対、「中間」の人でどちらともいえないが多かった。

10. まとめ

- 性的マイノリティに関する政策に対する態度を見ると、「同性婚」「同性パートナーシップ条例」「基礎知識の啓発」「差別の禁止」「性的マイノリティの暮らしやすい社会づくり」のいずれについても、賛成の人が反対の人より多かった。
 - ⇒ 性的マイノリティに関する政策への反対は少ないと言える。
- 性別に見ると、女性の方が性的マイノリティに関する政策に肯定的だった。
- 年齢による差はほとんどなかったが、「差別禁止を法律で定める」についてのみ、60-79歳の高年層で賛成が多く、若年層で「どちらともいえない」が多かった。
 - ⇒ 男性や若年層で賛成が少ない。
- 性的マイノリティの友人がいる人、性的マイノリティの漫画やドラマを見る人のほうが、性的マイノリティに関する政策に肯定的だった。
 - ⇒ 性的マイノリティの問題に関心がある人が友人をつくったりドラマや漫画を視聴している可能性があり、因果関係はわからないが、直接的・間接的な性的マイノリティとの接触が、政策への肯定的な態度に結びついている可能性も考えられる。
- 政治的態度が革新的な人は、性的マイノリティに関する政策に肯定的。政治的態度が中間の人は、個別の政策に対する態度も曖昧な人が多い。
 - ⇒ 個別の政策に関する説明を続けることで、政治的立場が中間の人が賛成に回る可能性がある。
 - ⇒ 本調査の回答者はランダムサンプリングで得られたものではないが、代表性のあるサンプルと比べて政治的態度に偏りがなかったことから、一般化し得る結果だと言える。

4. 引用文献

Igarashi, T. (2019). Development of the Japanese version of the Three-Item Loneliness Scale. *BMC Psychology*, 7:20, 1-8.

角野善司 (1995). 人生に対する肯定的評価尺度の作成(1). 日本教育心理学会第37回総会発表論文集, 95.

村松公美子 (2014). Patient Health Questionnaire (PHQ-9, PHQ-15) 日本語版および Generalized Anxiety Disorder -7 日本語版 - up to date -. 新潟青陵大学大学院臨床心理学研究, 第7号, 35-39.

谷口尚子 (2022). 5.1 政治に関する意識. 電通総研・池田謙一(編), 日本人の考え方 世界の人々の考え方II: 第7回世界価値観調査から見えるもの, 勁草書房.

Ueda, M., Nordström, R., Matsubayashi, T (2021). Suicide and mental health during the COVID-19 pandemic in Japan, *Journal of Public Health*, fdab113, <https://doi.org/10.1093/pubmed/fdab113>.

分析・執筆：竹内真純